

(市長記者会見資料)

平成26年1月6日

京 都 市

(行 財 政 局 総 務 課)
電 話 222-3045

京都市立芸術大学の移転整備について

～ 京都の玄関口・京都駅の東地域に、文化を創造し、国際的に多彩な人が
交流し、まちが賑わい、世界に発信する、「文化芸術都市・京都」の新たな
シンボルゾーンを創生！ ～

京都市立芸術大学は、平成24年4月に公立大学法人に移行しました。大学では、自主的・主体的な運営に積極的に取り組んでいますが、一方で、施設の老朽化や狭あい化、耐震不足等の課題を抱えるとともに、大学間競争が激化する中、より魅力と活力ある大学への変革が求められている状況にあります。そうした中、平成25年3月28日に、大学法人から本市に対し、現状の課題等の解決を図るとともに大学のさらなる発展を期して、大学の崇仁地域への移転整備を希望する要望書が提出されました。

本市では、大学からの要望を踏まえて検討した結果、この度、市立芸術大学について崇仁地域に移転整備する方針を固めましたので、お知らせします。

記

1 京都市立芸術大学の崇仁地域への移転整備について

(1) 移転整備の判断理由

平成25年3月の大学法人からの要望を踏まえ、本市において検討した結果、主に以下の理由から、市立芸術大学について崇仁地域への移転整備に取り組むこととした。

ア 市立芸大の発展に資すると認められること

昨年3月の市立芸大からの移転整備の要望に込められた思い、及びその後の大学との協議から、芸大が、大学一丸となって歴史的変革と発展に挑む強い意志が確認できた。

その上で、崇仁地域への移転については、京都の中心部に位置して活動することで、全国、世界を視野に文化芸術を創造・発信し、さらに企業や他大学等との連携により京都の地場産業や多くの知恵と融合しながら、一層の飛躍を目指し得ること等から、市立芸大の将来の発展につながると判断した。

イ 京都全体のまちづくりに貢献すると認められること

市立芸大の移転は、この地域に個性と創造性に満ちた魅力、活力、刺激をもたらし、JR京都駅の東地域の新たな未来を切り拓くことが期待できる。さらに、京都の中心部の大胆かつ挑戦的なまちづくりが大きく動き出すことで、周辺地域を含めて京都全体の特色あるまちづくりが一層進展する契機となり、京都の都市格と魅力の向上に貢献する大きな可能性を有している。

ウ 崇仁地域の将来ビジョンに合致すること

平成22年に地域住民の方々等によりまとめられた「京都市崇仁地区将来ビジョン検討委員会報告書」において、「創造・交流・賑わいのまち」のビジョンの実現に向け、この地域に大学施設や創造的な人材が集まる施設など「求心力のある魅力ある施設」の導入が望まれている。市立芸大の移転は、この将来ビジョンの方向性と合致している。

エ 移転先の地域の賛同が得られるとともに、現在地の地域と将来に向けた協議を行っていること

移転先の崇仁地域をはじめ下京区から、市立芸大の移転整備に賛成する要望書を提出いただいた。一方、現在地の西京区では、移転は残念とされつつも、移転も視野に今後のまちづくりについて協議していこうという対応をさせていただいている。いずれも地域のため、芸大のため、京都全体のためにと、将来を見据えた対応をさせていただいている。

オ 用地確保の見込みが立ったこと

移転整備の前提となる、大学の整備に必要な用地について、住宅地区改良事業の早期完了に取り組むことより、将来に向けて確保を図れる見込みが立てられた。

具体的には、**塩小路高倉から東南方面に位置する区画、約38,000㎡の土地を選定した(別紙図面)**。これらの土地を基本に、移転の具体化に向けた詳細な検討・調整を行う。

(2) 移転整備構想の策定等

- ・ 移転整備の推進に当たり、整備方針や概算事業費等を含めて、移転整備の基本的な方向性を明らかにする市立芸大移転整備構想を、平成26年度中に策定する(予定)。
- ・ なお、キャンパスの移転完成には今後10年程度かかると見込まれるが、事業期間をより短縮するための手法や、整備が可能となった箇所から施設を一部整備・開設していく方法等の検討も含め、効果的かつ効率的な整備の進め方を、構想策定の中で検討していく。

(3) 移転整備における主な視点

移転整備の具体的な内容は、今後、詳細に検討していくが、現時点で重視している、移転整備に取り組む上での視点は以下のとおり。

ア 芸術の才能・感性を育む関係機関の連携

移転整備に当たっては、崇仁保育所及び崇仁児童館について、市立芸大と同一区画内で、大学施設との合築など、大学と効果的な連携を図れる施設の在り方を検討する。

また、市立芸大の移転を機に、市立銅駝美術工芸高校や市立京都堀川音楽高校と、市立芸大との一層積極的な連携の可能性(施設の共用や授業面の連携など)を検討する。

これらにより、「**幼児期からの芸術的情操の育成と、高度な芸術教育の融合により、芸術の才能・感性を育む、京都ならではの文化芸術ゾーン**」の形成を目指す。

イ 文化芸術による人の交流、まちの賑わいの創出

移転整備先においては、市立芸大の教育研究施設等に加え、大ギャラリーや音楽ホール、レストラン、アートカフェ、地域交流センター、子ども音楽教室等、市民や観光客

が集い、文化芸術に触れ、交流する施設の整備等により、教育研究の充実だけでなく、**地域のまちづくりと連動し、地域の活性化にも資するキャンパスの在り方を追求**する。

※プレ事業の実施

上記イの視点の先行的取組として、移転・開校に先立って、元崇仁小学校施設等の活用による学生等による演奏会や作品展等の「移転整備プレ事業」を企画・実施し、市立芸大による「人の交流，まちの賑わいの創出」効果の早期の「見える化」を図る。

ウ 京都ならではの産業や文化，他大学等との連携の強化

京都のまち中に息づく西陣織，京友禅，京焼・清水焼等の伝統産業との様々な連携について，京都市産業技術研究所に近い利点等も活かして積極的に取り組む。能，邦舞，邦楽等の伝統文化とのつながりも重視するとともに，京都市美術館や京都コンサートホール等との連携も検討する。また，大学のまち交流センターに近いことを活かした他大学との連携強化等により，**文化芸術を核とした京都の人づくり・ものづくり・まちづくりの拠点の役割を担う**ことを目指す。

2 西京区・洛西地域における取組について

市立芸術大学の移転整備を進めるに当たり，現在地の西京区において，将来の芸大移転を見据えた「西京区・洛西地域の新たな活性化策」を，地域の皆様と共に考え，実践する取組を進める。

(1) 「西京区・洛西地域の新たな活性化協議会」(仮称) を設置

西京区・洛西地域の地元の代表，地域にある学術，産業等の関係機関の代表，行政，学識経験者等による協議・連携組織として，「西京区・洛西地域の新たな活性化協議会(仮称)」を平成26年度に設置し，活性化策の検討・取組(下記(2)(3))を推進する。

(2) 将来の市立芸大移転を見据えた「西京区・洛西地域の新たな活性化策」(仮称) を検討

市立芸大の移転(約10年後)を視野に，洛西地域をはじめ西京区の新たな活性化策について，地域住民の方々の意見を十分踏まえながら検討する。

ア 検討事項

- ・ 芸大移転を見据え，豊かな自然環境，京都大学桂キャンパスや国際日本文化研究センター，桂イノベーションパーク，第二外環状道路等の地域のポテンシャルをより一層生かした活性化策や，関係機関・地域等のネットワークの形成
- ・ 地域のまちづくりへの協力や子どもたちが芸術を学ぶ機会づくりなど，西京区で芸大が果たしてきた役割を引き続き維持していく方策
- ・ 芸大の跡地活用の方向性
- ・ 洛西地域における交通アクセスの向上

イ 検討の視点

検討に際しては、市立芸大がこれまでこの地域で担ってきた役割を踏まえた視点「文化、学術、防災」に加え、地域のポテンシャルや課題を踏まえた視点「観光、産業、環境、交通」を当面の基本的視点とし、西京区基本計画のまちづくりの方向性も踏まえながら検討する。

(3) 新たな活性化の取組を逐次実施

上記(2)の検討を進める中で、芸大移転までの間において、すぐに取り組める活性化策については、地域・関係機関・行政等の連携のもと逐次実行に移し、地域の活性化に向けた実践事例を重ねる。